

長岡京市の市民活動サポートセンター（サポセン）が市などと協働し、公園の緑化や美化に力を入れている。サポセンは美化活動を行うグループや自治会がない35カ所の公園について、市民団体に協力を呼び掛け、自らも公園に植樹を行っている。

長岡京の公園にもっと緑を

市サポセン、市民団体に協力呼び掛け

長岡京市では自治会や「みどりのサポーター」に登録する住民グループが、花苗や肥料を提供する市緑の協会などの支援を受け、公園の美化や緑化を担ってきた。2004年のサポーター制度開始以来、協力団体は100に増えたものの、全公園のうち4割133カ所はサポーターがおらず、緑化まで手が回らない状況だった。

高台3号公園（高台3丁目）も緑化活動が停滞してしまった公園の一つ。サポーターがいるが高齢化で活動を休止し、この1年ほど



アジサイを植える住民と市民活動サポートセンターのメンバー

（長岡京市高台3丁目）

花植樹 「地域発展の一步に」

は花を植えることができなかつたため、公園に明るさを取り戻したいと、自治会がサポセンに協力を依頼した。

19日、住民やサポセンメンバーの5人が集まり、約20センチの穴を掘って高さ50〜60センチに成長したアジサイを4本植えた。アジサイは、市内のNPO法人京おとくに・街おこしネットワークが栽培し提供した。

自治会の三原重徳会長（80）は「住民が楽しんでくれると思う。大切に育てたい」と喜んだ。サポセンの渡辺節郎さん（81）は「ここで住民がコミュニケーションをとれるようになれば、地域が発展する一步になるはず」と話している。サポセンは、市から公園の管理状況など情報提供を受けながら、21年度で5カ所の緑化・美化を目標にしている。

みどりのサポーターは、2人以上のグループで登録できる。問い合わせは緑の協会075(952)1900または市公園緑地課075(955)9716。

（古市大）